

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 6校時
児 童 男子6名 女子10名 計16名
指導者 小田島 一恵

1 単元名 くらべる点を決めて読み、「くらしの中の和と洋ブック」を作ろう
教材名 「くらしの中の和と洋(東京書籍 4年下)」

2 単元について

(1) 児童について

児童は、5月には「ヤドカリとイソギンチャク」で、自分が関心をもった生き物について、問いと答えの形で文章にまとめる言語活動を設定し、段落相互の関係や事実と意見との関係を、構成をとらえながら読む学習をした。また、6月には「広告と説明書を読みくらべよう」で、目的に応じて、文章の書き方だけでなく、絵や写真、色などの表現でどのような工夫をしているかを表にまとめながら読み、二つの資料の違いや読む人を引きつける工夫を文章でまとめる学習をした。

このような学習から、段落ごとの内容の大体を正しく読み取ること、絵や写真を理解のために活用することは概ねできている。しかし、文章を読んで、段落構成を理解し、事実と、筆者の意見や考えを分けたり、文章の書き方や文章以外の資料の使い方等、筆者の意図を理解したりすることができている児童は多くはない。また、自分で文章を書くときに、接続語、指示語等を正しく使って、読む人がわかりやすい文章を書こうと意識していない児童も見られる。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の指導事項「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」を重点に指導しようとするものである。

本単元では、児童が決めた「和」と「洋」について調べ、「『くらしの中の和と洋』ブック」を作るという目的のために、複数の本や資料から必要な情報を読み取り、文章を引用したり要約したりする言語活動を通して、目的に応じて必要な情報を取り出して読む能力、取り出した情報を自分の書く文章に生かす能力を身につけさせることをねらいとしている。

そのためには、まず、教材文について、イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む」力が必要である。教材文の大事な言葉や文をとらえ、文章の構成や筆者の考え等を考えながら読み取ることによって、今まで気づけなかった「和」と「洋」の具体的な違いと、それぞれの良さについて理解し、対比できる「和」と「洋」のものを探そうと思わせる。

本教材は、児童が気づきにくい「和室」、「洋室」の違いとそれぞれの良さを、対比してわかりやすく説明している。児童は、ともすると、「洋」のものが「便利なもの」、「和」のものは「古くて使いにくいもの」という先入観をもっていると思われる。教材文を読むことによって、児童に、和と洋の違いだけでなく、それぞれの良さに目を向けて調べていこうとする意欲をもたせることができると考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、言語活動例「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」を具体化し、生活の中の「和と洋」のものの中から、比べるものと比べる観点を決めて、必要に応じて資料から文章を選んで引用したり要約したりして、『『くらしの中の和と洋』ブック』を作ることを、単元を貫く言語活動として設定する。

仮説(1)の「習得した知識・技能を活用する言語活動の展開」に関わっては、「和室」と「洋室」について書かれている教材文に倣い、自分が調べるものについて、観点を決めて資料を調べて必要な部分をメモさせ、そのメモをもとに、『『くらしの中の和と洋』ブック』の文章を書かせたい。児童の意欲を高めるため、最初に、「くらべる図鑑(小学館)」等を見せ、「このような図鑑の形の『くらしの中の和と洋ブック』を作って図書室に置き、他の学年の児童に読んでもらおう」というゴールを示し、学習の意欲をもたせたい。自分が調べたい「和と洋」を最初に決め、「広告と説明書を読みくらべよう」での学習を生かして、教材文を参考に絵や写真を入れながら、違いや良さについてまとめる見通しをもたせたい。そのために、本教材が「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さについて書かれた文章であることをおさえ、自分が調べるものについて観点を決めて比べて書くために、教材の読み取りと並行して、図書館・インターネット等で、資料を探させる。

書いたものは、学級の中で読み合い、観点ごとに相互評価をさせた後、それを図書館に置き、他学年の児童にも読んでもらって、感想をもらうことで達成感をもたせたい。

仮説(2)「叙述を根拠にして思考する場を位置付けた指導」に関わっては、本論の部分を、指示語や接続語を手掛かりに文章の段落構成をとらえて和室と洋室を比べながら読み、「違い」と「よさ」を表す言葉を探しながら、それがどのように書かれているかを詳しく読ませたい。文章の構成をつかむため、本論部分を1枚に印刷した教材文を使い、色分けをして、和と洋の対比を読み取らせたい。そして、読んだ内容をもとに、自分なりの比べる観点をはっきりさせて調べたことを書けるようにさせたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- くらしの中の文化に関心をもって読み、「くらしの中の和と洋ブック」を作るのに必要な資料を得るために、本や文章の選び方や利用の仕方を工夫しようとする。

【読むこと】

- ◎ 「くらしの中の和と洋ブック」を作るために、図書等の資料の中から必要な文章を選び、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを要約したり引用したりすることができる。(C 読むこと エ)
- 段落ごとに書かれている内容をとらえ、対比している事柄に注意して読み取ることができる。(C 読むこと イ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりにはたす役割を理解し、使うことができる。(伝 国(ク))

4. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決するために、本や文章の選び方や利用の仕方を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決するために必要な文章の要点に着目して読み、自分の考えを補強したり例示したりするために、必要な部分を引用したり要約したりしている。(1)エ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読んでいる。(1)イ 	<ul style="list-style-type: none"> 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割について理解し、使っている。(1)イ(ク)

5 単元の指導計画と評価規準 (12時間)

段階	時	学 習 活 動	・指導上の留意点 □ 具体的評価規準(方法)	取り上げる言葉
第一次	1・2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習の見通しをもつ。</div> <p>◎ 題名や教材文からくらしの中の「和」と「洋」について、感想を書き、学習課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「和」と「洋」を辞書で調べ、意味を知る。 生活の中で「和」のもの、「洋」のものには、どんなものがあるか考える。 感想を書き、その交流を通して、学習課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「和」と「洋」の意味を知り、暮らしの中に、ある「和と洋」について関心をもたせる。 教材文が和と洋の違いやそれぞれの良さについて書かれた文章であることを確かめる。 「和」と「洋」の違いや良さについて感想をまとめさせる。 <p>関 「和」と「洋」について関心を持ち、課題を考えている。(発言・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「和」と「洋」 衣食住 良さ
	3	<p>◎ 『くらしの中の和と洋』ブックを作る見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の『和と洋』ブックを見て、つくり方を理解する。 自分が調べたいものを決め、資料を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師のつくった『和と洋』ブックとそれを調べた資料を見て、『和と洋』ブックのつくり方の見通しをもたせる。 <p>関 『和と洋』ブックのつくり方を理解し、自分が調べたいものを決めようとしている。(発言)</p>	
第二次	4・5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">比べる観点をおさえて読み取る。</div> <p>◎ 対比している事柄に注意しながら、教材文を読み取り、文章の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、序論・本論・結論の3つに分ける。 問いかけの文章を手掛かりに本論を3つに分ける。 序論・結論と本論の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 序論・本論・結論に分けた後、本論部分を印刷したプリントを使い、問いかけの文にサイドラインを引かせ、段落構成をつかませる。 <p>読 問いかけを手掛かりに本論部分を3つに分けている。(学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「衣食住」の和と洋について考えることの例として「住」を取り上げていることが本論であることをおさえる。 <p>読 全文の構成を考えている。(シート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ここでは まず 次に このように 考えてみましょう。 あるのでしょうか。

	6	<p>◎「和室」と「洋室」について「過ごし方」「使い方」の違いについて読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③の「ゆかの仕上げ方」から、過ごし方の違い(④～⑩)が生まれ、「置かれた家具」から使い方の違い(⑫・⑬)が生まれていることに気づかせる。 自分が調べる和と洋のものの違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時のプリントを使い、和室と洋室それぞれについて書いてあることを色分けさせる。 ④～⑩、⑪～⑬を一つのみとまとめる。 それぞれが、③の「ゆかの仕上げ方」、「置かれた家具」につながっていることをおさえる。 図書等の資料から、和と洋の違いを対応させてメモさせる。 <p>読 和と洋について書かれている部分を区別している。(学習シート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゆかの仕上げ方 そこに置かれる家具 和室、洋室での過ごし方 部屋の使い方 一方 まず 次に 良さ それに対して
	7 (本時)	<p>◎「和室」と「洋室」について、それぞれの良さについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点ごとに和室と洋室の過ごし方や使い方の良さを読み取る。 過ごし方と使い方について、和室、洋室それぞれの良さを要点をまとめる。 「てびき」の「はしとフォーク」のメモから、自分なりの比べる観点を決め、文章に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に色分けしたプリントを使い、和室と洋室それぞれの良さについて書いてある部分を学習シートにまとめさせる。 <p>読 和室と洋室それぞれの良さをまとめて書いている。(学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「てびき」の「はしとフォーク」のメモの中から自分の文章に生かせる部分を探させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ですから 例えば これに対して
第三次	8	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">調べたことをもとに、「和と洋ブック」を書く。</p> <p>◎自分の調べるものについて構想メモにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ブック」に書く観点から、メモの中から必要なメモを選ぶ。 教科書の作品例から、本から引用するときは、書名・ページを書き、引用文を正確に書き写すことを知る。 自分で観点を決め、メモから選んで構想メモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の中から、自分の決めた観点から必要なメモを選ばせる。 メモしたことを全部文章にするのではなく、必要な部分だけ利用すること、自分の考えも書くことを理解させる。 <p>読 自分の「和と洋ブック」に生かせるメモを見つけて構想メモを書いている。(学習シート)</p>	
	9 ・ 10	<p>◎構想メモをもとに、自分が調べた「和」と「洋」について文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書く順序を考え、メモをふくらませて「和と洋ブック」を書く。 書き終わったら、自分で推敲し、その後、早く書き終わった児童どうして、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想メモをもとに自分の考えを加えて文章にまとめさせる。 自分の考えと引用部分を区別して書くようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 推敲の観点を示し、何回も読ませる。 <p>書 メモを生かしながら、自分で決めた観点で和と洋の違いや良さを「和と洋ブック」に書いている。(学習シート)</p>	
	11	<p>◎同じものや似たものを調べた児童どうしてグループを作り、発表し合っ、感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3～5人のグループに分かれ、自分の「ブック」と比べながら聞くようにさせる。 <p>読 自分の「ブック」と違う点を見つけ、感想を伝え合っている。(感想メモ)</p>	

ま と め る 15 分	6 「てびき」のメモを使って、「はしとフォーク」の『くらしの中の和と洋』ブックの文章を書く。 ・メモをもとに、自分なりの比べる観点で「ブック」の文章を書く。 ・早く書いた順に、書いた文章を交換して読み合う。 7 次時の学習内容を知る。	・「てびき」の「はしとフォーク」の比べる観点の中から、自分が比べる観点を考えさせる。 ・それぞれの観点の違いに気づかせ、感想を交流させる。 ・次時は、自分の「くらしの中の和と洋ブック」の構想メモを書くことを知らせる。
-----------------------------	--	--

(4) 板書計画

